

氏名	鬼 無 信
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙 第 1372 号
学位授与の日付	昭和58年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	ループス腎炎の免疫学的研究： 第1編：Raji cell radioimmunoassay の基礎的検討 第2編：Raji cell radioimmunoassay による血中免疫複合 体と腎組織における顆粒状沈着物の関連について
論文審査委員	教授 木村郁郎 教授 長島秀夫 教授 小川勝士

#### 学位論文内容の要旨

腎に顆粒状沈着物を認めるループス腎炎26例で Raji cell radioimmunoassay (RCRIA) にて血中免疫複合体 (IC) の測定をおこない方法論を含めた基礎的問題点を検討した。

RCRIA 値と ds-DNA 抗体の間には、有意の正の相関があり ( $P < 0.05$ )、 $\gamma$  グロブリンとの間にも有意の正の相関がみられた ( $P < 0.001$ )。一方 RCRIA 値と血清補体価は逆相関の傾向を示したが有意ではなかった ( $0.2 < P < 0.3$ )。RCRIA 値が著明高値の13例中 ds-DNA 抗体陰性例が4例あり、DNA 系以外の IC の存在が考えられた。

以上より RCRIA は SLE の血中 IC を検出するに有用な方法であり、その値は本症の免疫学的活動性を示す一指標となりうると考えられた。

ループス腎炎の腎病変と血中 IC に関して検討した。蛋白尿陰性の8例中5例が血中 IC が著高を示した。この5例のうち4例は腎メサンギウムに大量の IC 沈着のある例であった。又、腎間質に IC 沈着陽性例は陰性例に比較し血中 IC が有意に高値を示した。従来報告では蛋白尿の程度と血中 IC に相関を認めるものが多いが著者の成績では、尿所見と血中 IC の間には全く相関がみられなかった。

RCRIA による血中 IC は、臨床的な尿所見を反映するのではなく腎組織の IC の程度を反映し、ループス腎炎の病態把握に有用な一指標となることが示された。

## 論文審査の結果の要旨

本研究は臨床的にループス腎炎の免疫学的研究を行ったもので、血中免疫複合体測定の方法論の問題から更に腎病変との比較を行ったものであるが、従来十分確立されていなかった免疫複合体の測定について Raji cell radioimmunoassay 法が有用であることを認め、本症の免疫学的活動性を示す一指標と考え、又血中免疫複合体は腎組織の複合体沈着の程度を反映し病態の把握に有用な一指標であることを認め、重要な知見をえたものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。